

# 小学校音楽教科書における教材選択に関する考察 ——「曲の主題」を観点とした日本とアメリカの音楽教材の比較を通して——

筑波大学大学院

白石 文子

本研究は、「曲の主題」という観点から日本とアメリカの小学校音楽教科書を比較・考察し、両者に見られる教材選択の特徴を明らかにすることによって、教材選択に関する我が国の音楽教育研究の課題を提案しようとするものである。

考察の結果、両者においてそれぞれ次のような特徴が認められた。(1)アメリカの音楽教科書：①各学年において、「曲の主題」間の割合の差があまり大きくない。②各学年における「曲の主題」の種類が多い。③娯楽に関する曲が多い。

(2)日本の音楽教科書：①少数の「曲の主題」によって大きな割合が占められ、「曲の主題」間の割合の差が大きい。②各学年において取り上げられていない「曲の主題」があり、「曲の主題」の種類が少ない。③自然と感情に関する曲が多い。④4～6年において感情に関する曲が急増する。

## I. 序

我が国において小学校の音楽教科書が編成される際には、学習指導要領に示されている音楽科の「内容」に基づき、曲の拍子、調性、リズムの特徴などが教材選択の観点とされている。しかしこれらに加えて、どのような「曲の主題」<sup>(1)</sup>を取り上げるかということも、教材選択の際の観点の一つとして重要である。なぜなら「曲の主題」は、第1に子どもの興味と深く関係しており、第2に子どもの生活や感情と音楽とを結びつけることと大きく関連しているからである。

そこで本研究では、日本とアメリカの音楽教科書における教材について、各学年においてどのような「曲の主題」が、どのような割合で選択されているかを比較・考察し、それによって両者の音楽教科書に見られる教材選択の特徴を明らかにする。そしてその結果から、教材選択に関する我が国の音楽教育研究の課題を提起したい。なお、鑑賞教材には「曲の主題」を表わす標題が必ずしもついているわけではないため、本研究では、歌唱・器楽教材のみを対象とする。

## II. 先行研究の考察

我が国や他国の音楽教科書を対象とし、教材選択に関して比較や考察が行われている先行研究としては、①内山育子・清水聡美(他)<sup>(2)</sup>、②大久保良枝<sup>(3)</sup>、③佐地多美<sup>(4)</sup>、④田辺隆・渋谷あき子<sup>(5)</sup>、⑤長尾愛作<sup>(6)</sup>らのものがあげられる。これらの先行研究では、鑑賞教材、或いは歌唱教材の選択について、それぞれ以下のような観点からの考察がなされている。

### A. 鑑賞教材について

a. 古典派、ロマン派、現代など、曲が作られた時代—①、③、④。

b. 器楽曲、声楽曲などの、曲の種類—①。

### I. 歌唱教材について

a. 各拍子、拍子の無いもの、途中で拍子が変わるものなどの、曲の拍子—①。

b. 長調、短調、無調、民族音階、日本音階などの、曲の調性—①、⑤。

c. 曲の最低音と最高音に着目した、曲の音域—①、⑤。

d. 2部合唱、3部合唱などの曲態—①、⑤。

- e. ヨーロッパ、アフリカ、東洋などに分類できる外国曲の取り扱い①、②。

以上のように、我が国の音楽教科書における教材選択に関する先行研究では、鑑賞教材については時代・種類を観点として、歌唱教材については、拍子・調性・音域・曲態・外国曲の取り扱いを観点として比較・考察が行われているが、「曲の主題」を観点とした研究はまだなされていない。

### Ⅲ. 方 法

#### 1. 研究対象

研究の対象とする教科書は、アメリカの音楽教科書として、Holt, Rinehart and Winston, Publishers の“Holt Music”<sup>(7)</sup> (以下HMと略す)、日本の音楽教科書として、教育芸術社の「小学生の音楽」<sup>(8)</sup> (以下小音と略す)である。

HMはアメリカにおける代表的な音楽教科書のうちの一つであり、「多種多様の歌唱教材が用いられていること<sup>(9)</sup>」を特徴とする。小音は我が国において最も採択率の高い<sup>(10)</sup>音楽教科書である。

HMはグレード1～8までであるため、これらのうち、日本の小学校の1～6年に相当するグレード1～6を比較の対象とした。

#### 2. 分類項目の決定

「曲の主題」に基づく分類項目は、次の手順で決定された。

①まず、全ての教材について、曲の題名や歌詞の内容から判断して「曲の主題」を決定した。たとえば「かたつわり」の「曲の主題」は動物であり、「さくらさくら」の「曲の主題」は植物である。このようにして、動物、作業、祝祭日、挨拶、友だち、喜び、物語、楽器、ダンスなどの38種類の「曲の主題」が得られた。

②次に、それらの「曲の主題」を教材として取り上げることによって、子どもは何を学ぶことができるか、子どもの態度にどのような変化が起り得るかという観点から、38種類の「曲の主題」をさらに以下のように大きく分類した。

a. 自然への関心が高められると思われる「曲の主題」、すなわち、動物、植物、山や川などの風景、天候、季節をまとめて「自然」とする。

b. 仕事の楽しさや意義を教えてくれる「曲の主題」、すなわち、作業、職業をまとめて「仕事

とする。

c. 音楽と祝いごとや祭りごととの結び付きを表わす「曲の主題」、すなわち、祝祭日、誕生日をまとめて「祝祭日」とする。

d. 日常生活における諸経験や、身のまわりの物事への関心を高めると共に、音楽によって生活の充実をはかるという意図が読み取れる「曲の主題」、すなわち、挨拶、遊び、遊具、旅、教訓、乗り物、建物、町、食物、道具をまとめて「生活」とする。

e. 他の人々の行為や他者との相互関係への関心が高められる「曲の主題」、すなわち、友だち、人物、人間関係をまとめて「人間」とする。

f. 物事に対する感情が高められ、感情表現が豊かになると思われる「曲の主題」、すなわち、喜び、友情、愛、感傷、激励、愛国心をまとめて「感情」とする。

g. 空想や想像の世界を自由に表現できることが学ばれる「曲の主題」、すなわち、物語、想像、夢をまとめて「空想」とする。

h. 音楽そのものへの関心が高められる「曲の主題」、すなわち、楽器、音、歌う喜びをまとめて「音楽」とする。

i. 音楽によつて、ダンスやゲームや言葉遊びが明るく楽しいものになることが学ばれる「曲の主題」すなわち、ダンス、ゲーム、言葉遊び、意味のないおもしろい歌詞、をまとめて「娯楽」とする。

以上のような方法により、「自然」、「仕事」、「祝祭日」、「生活」、「人間」、「感情」、「空想」、「音楽」、「娯楽」の9つの分類項目を決定した。なお、歌詞の意味が不明な民謡や外国の曲、題名から「曲の主題」が判断できない器楽曲は、「その他」として分類する。

#### 3. 分類の結果

上述の9つの分類項目によって、HMと小音における歌唱・器楽教材を分類した結果を表1に示した。次に、各学年においてそれぞれの分類項目が占める割合を、分類項目ごとに図1に示した。図2には、HMと小音においてそれぞれの分類項目が占める割合を示した。図3には、それぞれの分類項目が各学年において占める割合を示した。図2、図3では、全体における「その他」の割合

を参考までに示した。なお表1からわかるようにHMの総曲数は、小音のその3倍である。

表1 各分類項目における曲数

	H M	小 音
a. 自然	168 曲	87 曲
b. 仕事	13 曲	3 曲
c. 祝祭日	65 曲	4 曲
d. 生活	76 曲	20 曲
e. 人間	49 曲	7 曲
f. 感情	97 曲	42 曲
g. 空想	19 曲	7 曲
h. 音楽	23 曲	19 曲
i. 娯楽	102 曲	12 曲
j. その他	12 曲	7 曲
合計	624 曲	208 曲

#### IV. 結 果

##### 1. 分類項目ごとに見る各学年における各分類項目の割合

図1より、(1)各項目ごとの結果、及び、(2)HMと小音の相違点は、それぞれ次のようなものであった。

###### (1)各項目ごとの結果

a. 自然 HMでは、1～4年においては「自然」の割合が多いが、5・6年では少ない。1～4年の各学年における「自然」の割合は、5・6年のその2倍以上である。HMと同様に小音においても、1～4年において「自然」は高い割合であるが、5・6年では低くなっている。しかし小音の5・6年の「自然」の割合はHMの2倍以上であり、全体的にはHMよりも小音のほうが「自然」の割合が非常に大きい(図2)。

b. 仕事 HMにおいても小音においても、「仕事」の割合は小さい。しかしHMでは全学年で「仕事」が取り上げられているのに対し、小音では1・4・5年のみである。

c. 祝祭日 HMでは全学年を通して「祝祭日」が10%前後の割合を占めているのに対し、小音では1・3年でしか取り上げられていない。全体的には、HMの「祝祭日」の割合は小音のその5倍以上である(図2)。

d. 生活 「生活」は、HMでは、低学年、中学年、高学年において似たような割合であるが、小音では、低学年から中学年、高学年にかけて減

少する傾向にある。

e. 人間 「人間」については、HMでは全学年で取り上げられているが、小音では2・3・4年でのみ取り上げられている。全体的にはHMが小音の2倍以上である(図2)。

f. 感情 HMにおいて「感情」は、1～4年よりも5・6年のほうが2倍以上高い割合を占めている。小音でも似たような傾向があり、1～3年よりも4年のほうが3倍以上多く、5・6年ではさらに4年の2倍以上であり、高学年ほど「感情」の割合は急激に高くなっている。

g. 空想 「空想」は、HMにおいても小音においても全体的に割合が小さい。しかし、HMでは各学年で「空想」が取り上げられているのに対し、小音では6年にはない。

h. 音楽 「音楽」は、HMでは高学年になるにつれて徐々に増える傾向にあるが、小音ではその逆である。全体的には、HMよりも小音のほうが2.0%多いだけである(図2)。

i. 娯楽 HMでは、4年を除く各学年において、「娯楽」が20%に近い割合を占めている。一方小音では、1年を除く他の学年ではあまり多くなく、3年では取り上げられていない。全体的にはHMが小音の3倍近く多い(図2)。

###### (2)HMと小音の相違点

以上の結果より、HMと小音とでは次のような点で大きな違いがある。

- ①HMに比べると、小音では「自然」の割合が非常に大きい。
- ②HMに比べると、小音では、4年及び5・6年において「感情」が急激に増える。
- ③「祝祭日」、「娯楽」、「人間」がHMにおいて取り上げられている割合に比べて、小音ではそれらがあまり多く取り上げられていない。
- ④HMでは、「仕事」、「祝祭日」、「人間」、「空想」、「娯楽」が各学年において取り上げられているのに対し、小音ではそれらが各学年に必ずしもあるわけではない。

##### 2. 学年を通して見る各分類項目の割合

次に図3より、各学年における各分類項目の割合について、(1)HMの結果、(2)小音の結果、(3)HMと小音の相違点を、それぞれ次のようにまとめることができる。

図1 分類項目ごとに示した各学年における各分類項目の割合

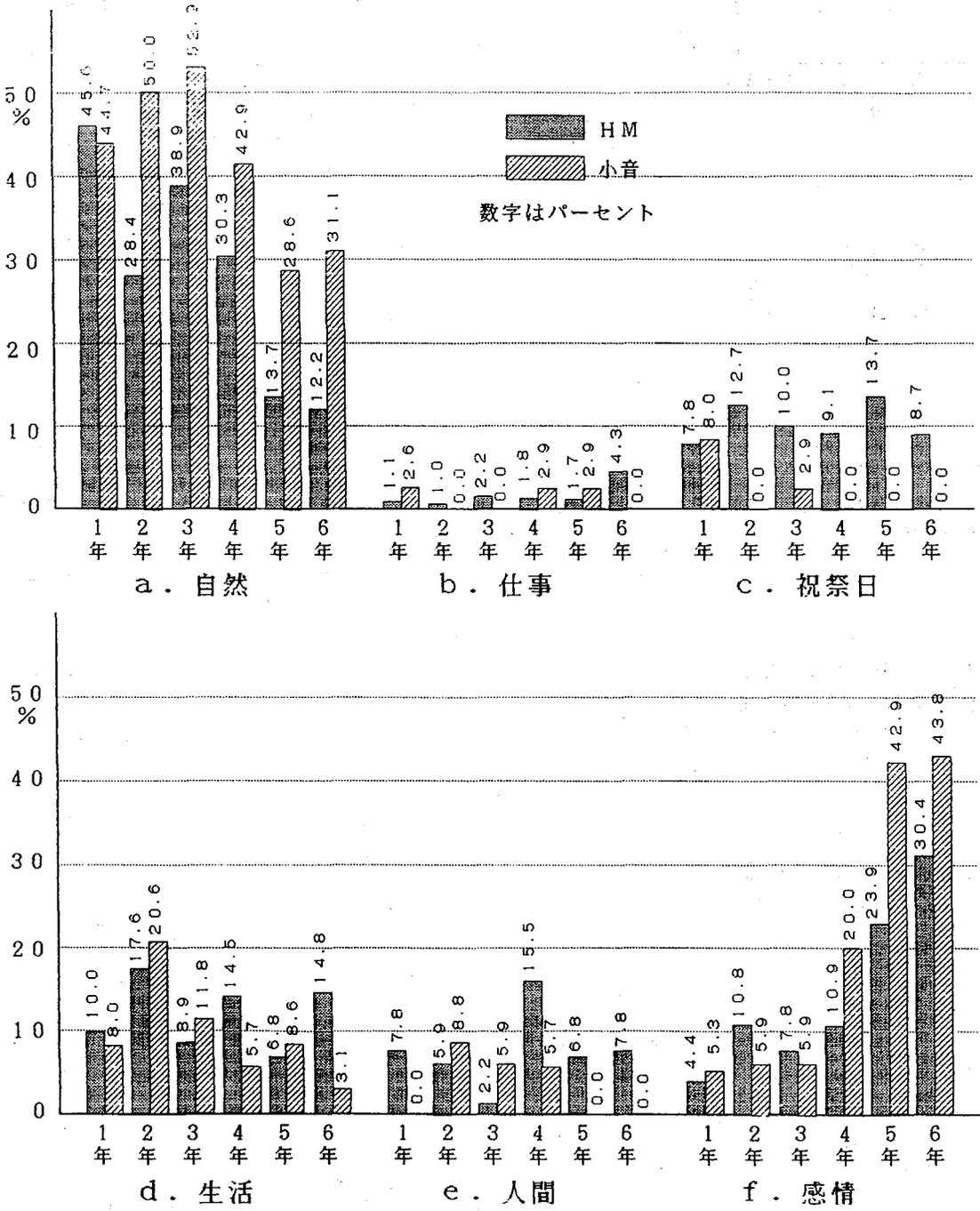


図1の続き

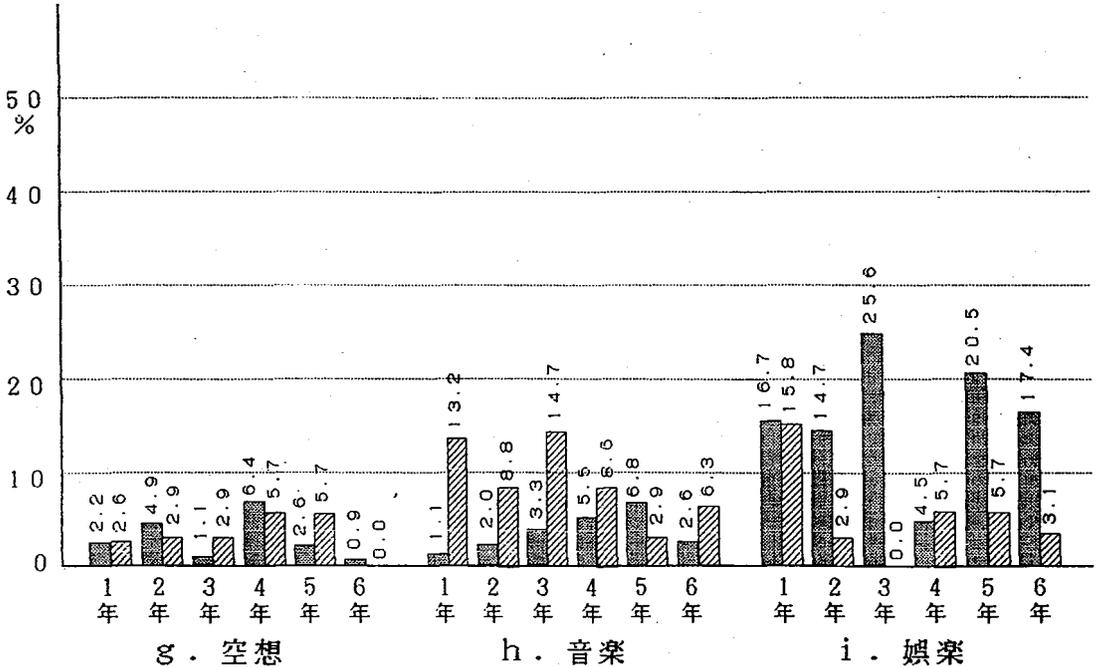
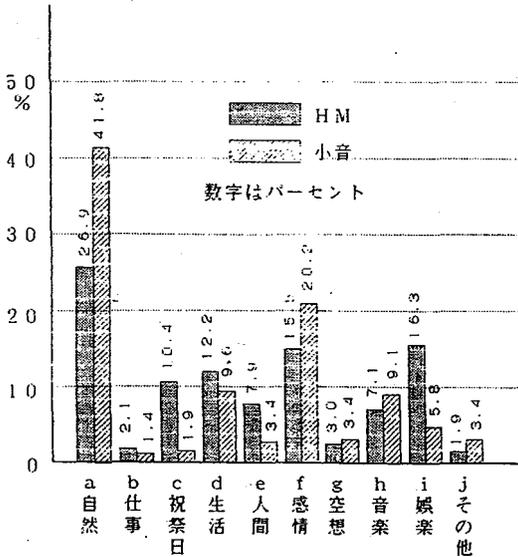


図2 HMと小音における各分類項目の割合



(1)HMの結果

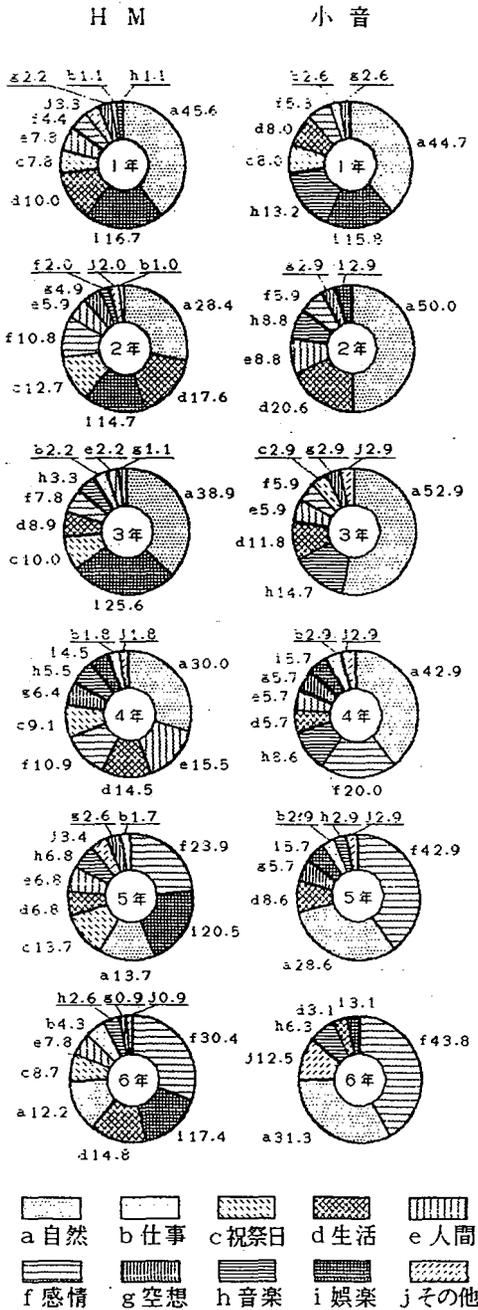
1~4年までは、「自然」が1位で、約30%~45%を占めており、ほかの項目に比べて多い。

5・6年では「自然」は3位または4位に下がっており、「自然」に代わって「感情」が1位である。また4年を除けば「娯楽」が2位または3位で常に上位にある。「曲の主題」数については、「その他」を除く9種類の分類項目のうち、各学年においてすべての項目が取り上げられている。

(2)小音の結果

1~4年までは「自然」が1位であり、いずれも40%以上の高い割合を占めている。5・6年では「自然」は2位であり、代わって「感情」が1位であるが、「自然」は学年を通じて上位にある。5・6年において「感情」は40%以上の高い割合を占めており、2位の「自然」もそれぞれ約30%という高い割合である。そのため、「感情」と「自然」を合わせて全体の約70%を占めている。4年においても、「自然」と「感情」が上位2項目で全体の62.9%を占めている。「曲の主題」数については、「その他」を除く9種類の分類項目のうち、各学年において5~8種類の項目が取り上げられている。

図3 学年ごとに示した  
各学年における各分類項目の割合



数字はパーセント

(3)HMと小音の相違点

以上の結果から、HMと小音との違いとして次のようなことがあげられる。

- ① 1～4年までは「自然」、5・6年では「感情」が最も多いことは、HMにも小音にも共通であるが、HMに比べて小音では、「感情」と「自然」の占める割合が、他の項目よりも非常に大きい。
- ② HMでは、5・6年において「自然」の割合が減り、3位または4位に下がっているが、小音では、5・6年においても「自然」が2位にとどまっておき、学年を通じて上位を占めている。
- ③ HMでは、4年を除けば「娯楽」が上位にあり、約15%～25%を占めているが、小音では、1年を除けば下位にあり、約3%～6%の低い割合である。
- ④ 小音よりもHMのほうが、各学年における「曲の主題」の種類が多い。

V. 考 察

次に、前節において明らかにした、HMと小音の相違点について考察し、両者の特徴を明らかにする。

HMでは、各学年において、1位の項目と2位の項目の割合の差はやや大きいですが、2位以下の各項目の割合の差は、3年を除けば小音に比べて大きくない。このようにHMでは、小音ほど「曲の主題」間の割合の差が大きくない。一方小音では、「自然」と「感情」の割合が非常に大きく、各学年において、1項目で全体の半分近くを、或いは2項目で4分の3近くを占めている。このように小音では、少数の項目で大きな割合が占められているために他の項目の割合が小さくなり、「曲の主題」間の割合の差が大きい。具体的には、「祝祭日」、「娯楽」、「人間」の割合がHMに比べると小音では小さい。

「曲の主題」数については、HMでは9種類の分類項目が各学年においてすべて取り上げられている。これに対して小音では、それらが必ずしもすべて取り上げられているわけではなく、各学年における「曲の主題」の種類がHMよりも少なくなっている。

「曲の主題」についてHMと小音を比較すると、

HMでは「娯楽」の割合が、4年を除けば、学年を通じて大きいことが特徴である。小音では、「自然」と「感情」の割合が大きいことが特徴であるが、さらに「感情」が4～6年において急増することも特徴的である。

以上の考察から、HMと小音における教材選択の特徴を、それぞれ次のようにまとめることができる。

#### HMの特徴

- ①各学年において、「曲の主題」間の割合の差があまり大きくない。
- ②各学年における「曲の主題」の種類が多い。
- ③4年を除く学年で「娯楽」が多い。

#### 小音の特徴

- ①少数の「曲の主題」によって大きな割合が占められ、「曲の主題」間の割合の差が大きい。
- ②各学年において取り上げられていない「曲の主題」があり、「曲の主題」の種類が少ない。
- ③「自然」と「感情」が多い。
- ④4～6年において「感情」が急増する。

## VI. 結 語

本研究で明らかにしたように、HMでは小音に比べて「娯楽」が多く、小音ではHMに比べて「自然」と「感情」が多かった。HMでは、「娯楽」を多く取り入れることによって、音楽の娯乐的側面が強調されており、このことは音楽への子どもの興味を持続させることにもつながる。一方小音では、音楽と自然との関係が学年を通じて強調され、高学年になるとそれに加えて音楽と感情との関係が強調されるようになっていく。小音において「自然」が多い理由としては、四季に関する曲が多く選択されていることがあげられる。共通教材の中に、「さくらさくら」、「もみじ」など、自然を主題とした曲が多いことも理由の一つと考えられる。また、高学年で「感情」が多いのは、「集いの歌」、及び「音楽会用合唱曲」として、感情を主題とする曲が多く選択されているためである。

HMと小音において、各学年における「曲の主題」間の割合の差、及び「曲の主題」数に違いが見られたことについては、次のように考えられる。小音では、「自然」と「感情」の割合が大きい

めに、各学年における「曲の主題」間の割合の差がHMに比べて大きかった。つまり小音では、「自然」と「感情」を多く取り上げることが優先され、「曲の主題」間の割合に大差があっても問題はないのである。また、HMでは各学年における「曲の主題」数が多かったのに対し、小音ではそれが少なかった。つまり小音では、各学年において必ずしも様々な「曲の主題」が取り上げられる必要はなく、それよりも「自然」と「感情」を多く取り上げることの方が強調されているのである。特に「自然」は、小音でもHMでも最も多く取り上げられている「曲の主題」であるが、HMでは全曲数の26.9%を占めているのに対して小音では41.8%であり、HMの約1.6倍である。

小音において、「自然」と「感情」が、他の「曲の主題」に比べてこれほど多く取り上げられる根拠は何か。それについて次のことが考えられる。すなわち、(a)四季に関する曲を意図的に選択している、(b)特に高学年では、感情を主題とする曲を重視している、(c)「曲の主題」よりも歌詞や旋律の芸術性を優先している、ということである。これらの結果、自然や感情に関する曲が多くなり、その他の「曲の主題」は多く取り上げられなかったのではないか。しかし、様々な「曲の主題」の音楽を教材とすることによって、自然や感情のみならず、子どもの生活全体と音楽との関連がはかれる。また同時に、第Ⅲ節で述べたように、子どもはそれらの音楽から多くを学ぶことができる。これらの点に注目すれば、「自然」や「感情」だけでなく、様々な「曲の主題」をより多く取り上げなくてよいのかどうかを検討する必要がある。

この問題は、「曲の主題」を観点とした教材選択の基準の明確化を意味する。その基準を得るためには、(a)我が国の音楽教育の目的・目標に照らして「曲の主題」の教育的価値を明確にし、(b)各学年で取り上げられる「曲の主題」の種類と割合、すなわちカリキュラム編成上の問題を明らかにしなければならない。今後、我が国の音楽教育研究では、このように教材選択の基準を明確にするという意図の下で、音楽教育の目的・目標論、カリキュラム論の研究を行う必要がある。

## 注

- (1)本稿では、曲の題名や歌詞が表わす中心的な内容のことを「曲の主題」と呼ぶ。たとえば、「春がきた」は、季節を主題とした曲であり、「おしょうがつ」は、祝祭日を主題とした曲である。
- (2)内山育子・清水聡美(他), (1983); 「日本の音楽教科書の比較調査(上・下)」季刊音楽教育研究, 夏・秋号, PP.138-149, 170-175
- (3)大久保良江, (1971); 「音楽教科書の問題点」文化評論, 113号, PP.88-94
- (4)佐地多美, (1972); 「米・東独・日に見る鑑賞教材の比較教育的考察」季刊音楽教育研究, 6月号, PP.122-131
- (5)田辺 隆・渋谷あき子, (1978); 「アメリカの音楽教科書における鑑賞教材についての一考察」季刊音楽教育研究, 夏号, PP.106-115
- (6)長尾愛作, (1983); 「日米音楽教科書の比較研究-教育芸術社とSilver Burdett Company」宮城学院女子大学研究論文集, 59号, PP.71-90
- (7)E. B. Meske et al., (1988); *Holt Music* (1-8), Holt, Rinehart and Winston, Publishers, New York
- (8)市川都志春(他), (1988); 「小学校の音楽」(1年~6年)東京, 教育芸術社
- (9)橘 多恵子, (1980); 「日米両国の小学校音楽教科書の比較とわが国の現状への一考察」季刊音楽教育研究, 24号, PP.132-141
- (10)時事通信社編, (1988); 「一六社中十社が冊数減 小学校教科書の採択状況-時事通信社調べ」内外教育, 3977号, PP. 4-5

A Study on the Selection of Teaching Materials  
in Elementary School Music Textbooks :  
Comparison of Teaching Materials between Japanese and  
American Textbooks Focusing on "Theme of Tune"

by

Fumiko SHIRAIISHI

Graduate School of Education, University of Tsukuba

The author's aims in this paper are to make clear the features of the selection of teaching materials in Japanese and American elementary school music textbooks, and to propose the problem to be solved in the study on music education in Japan. She compares Japanese textbooks with American textbooks focusing on "theme of tune" of vocal and instrumental materials.

The features of each textbook were indicated as follows ; 1. American textbook : (1) There is not great difference of proportion between each kind of "Theme of tune". (2) There are many kinds of "theme of tune" in each grade. (3) There are a lot of tunes on "amusement".

2. Japanese textbook : (1) A few sorts of "theme of tune" take much proportion, and there is great difference of proportion between those and other "theme of tune". (2) There are not all kinds of "theme of tune" in each grade. (3) There is a large number of tunes on "nature" and on "emotion". (4) The number of tunes on "emotion" increases rapidly in 4th, 5th, and 6th grades.